

1 1. 茨木市立文化財資料館

当館は、市民が気軽に訪れ、まちの歴史や文化に親しみ、郷土愛を育てる場として、昭和 59 年

(1984 年) 3 月 30 日にオープンしました。

令和 4 年 (2022 年) 3 月 31 日に、郷土史料室を館内 2 階に開室されました。

茨木市の東奈良遺跡で発掘された弥生時代の資料を中心に、茨木市の戦国時代の資料から近代までの生活史がわかる資料が展示され、定期的にテーマ展が開かれています。

資料館の北側には古代の生活を偲ばせる、銅鐸・埴輪などをかたどった像や東屋が置かれた「東奈良史跡公園」(通称:はにわ公園)となっています。



1 階展示室内内容の一部紹介

○石器時代：旧石器時代後期のナイフ形石器が市域の北部や太田遺跡、郡遺跡で見つかっています。

これらの石器から、人々が狩猟・採集をしながら生活をしていたことがわかります。

○縄文時代：茨木では縄文時代のはっきりとした集落遺跡は少ないですが、耳原遺跡からは狩猟に用いる石の鎌や、小児の土器棺が見つかっています。近くに住居もあったのでしょうか。

○弥生時代：この時代から、日本でも金属器を生産し、使用するようになります。東奈良遺跡では青銅器やガラス製品を生産する道具が大量に見つかっています。

とりわけ、ほぼ完全な形を保った銅鐸鑄型は全国で唯一のものです。

○古墳時代：土を盛った大きな墓(古墳)が列島各地に造られ、茨木でも数多くの古墳が造られました。なかには、三角縁神獣鏡が数多く出土した紫金山古墳、三島地域最大の前方後円墳である太田茶臼山古墳などがあります。

また、米を作るようになり、茨木でも目垣遺跡、郡遺跡、宿久庄遺跡など集落遺跡が増加し、稲作に用いる道具や粃殻がついた土器が見つかっています。

○古代～中世：氏族寺院の造営が盛んになり、穂積廃寺、太田廃寺、三宅廃寺などが古代寺院として知られています。神社では、式内社 10 社 13 座が今も残っています。

また、茨木の山間部では鎌倉時代末から室町時代にかけての中世墳墓が多くあり、クルス山中世墳墓は数百基の墓と数基の火葬墓からなります。